

令和4年度 地域と学校の連携・協働に係る研修会 アンケート内の質問等に対する回答

◇上野原市立島田小学校

1	地域住民が主体で活動をする場合の取りまとめ、人材確保等はどのようにされているのか、また、各活動において、教員の負担はどのくらいなのか。
(回答)	取りまとめや人材確保は、地域の方（特に碓井さん）が主体的にしてくださっており、 <u>教員側の負担はない</u> と言える。
2	地域の方が積極的に学校と関わり、さまざまな活動を連携して実施していることがわかって良かった。できれば学校側の立場として、活動の紹介だけでなく、 <u>活動をどのように計画・相談していったのか、留意点や配慮する点は何か</u> を詳しくお話いただけると良かった。
(回答)	<p>地域の方々が協力し、<u>もともとある学校行事に、アレンジを加えながら主体的に計画</u>してくださっているため、学校側は、日程や内容を確認する程度である。<u>放課後子供教室に関わってきた方がサポート</u>してくださるため、大きな問題なく進められている。</p> <p>気を付けていることとして、次の様な点に配慮している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の意向と協力者の想いがあるため、その折り合いをうまく付けること ・事後の活動につながるように学校でも指導していくこと ・教員への活動周知と、<u>児童と共に学び考える姿勢をもって全職員で活動に臨むこと</u>
3	地域と密着した取組が多く、大変参考になった。 <u>地域の方々の授業を教育課程にどのように位置づけているのか</u> 参考にしたい。
(回答)	現在は、学校行事（福祉集会）や児童会活動として行っているが、 <u>今後は総合的な学習の時間に位置づけ</u> 、主体的・探究的な学びを育てていきたいと考えている。

◇NPO 法人河原部社

1	蕪崎での職業体験は、 <u>全中学校で実施しているのか</u> 。 中学2年生の <u>教育課程に位置づけられているのか</u> 。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・蕪崎市内全中学校（東中・西中）で実施。 ・通常の職場体験活動同様、総合的な学習の時間として教育課程に位置づけられている。
2	地域の方（団体）が学校へアプローチしながら、長期的な視点で地域の活性化を図ろうとしていることがわかりよかった。今後このような取り組みはさまざまな地域が必要であることを感じた。活動だけでなく、それらを <u>構築していくまでの手順や工夫など</u> を聞けるとよかった。
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・構築については、地域の様々なステークホルダーとの話し合いのもと、<u>教育長に働きかけて各学校の校長に繋いでいただいた</u>。その上で、<u>担当の教員と事業内容（イベントや授業など）の企画や運営を一緒に行っていた</u>。 ・工夫としては、<u>いきなりあれもこれも変えず、完璧を目指さず、できる範囲から始めて、年々バージョンアップ</u>していけるような想定を最初にしたこと。また、<u>当事者（中学生）の声を大事にし、事業に反映</u>していくこと。

◇講師：興梠 寛 先生

1	<p>学校を地域に開くことには多いに賛成で、非常に参考になる事例だったが、防犯という視点では、どのように対応されているのか。沢山の人間が、関わることは素晴らしいが、それと知らない人、怪しい人物を校内に入れないことを、どう両立させていくのか。</p>
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアの存在自体が防犯になるという見方もある。朝・帰りの見守りが一つの良い例。学校内でも、教員だけではなく、子どもに関わる目が増えることは大きい。 ・ ボランティアの数が増えると見分けが付かない等、心配されるかもしれないが、各活動や定期的なボランティア会議・研修会等を通して、ボランティア同士の横のつながりができることで、おかしな人材等は浮かび上がってくる。活動が多くの人に広がることで、地域の人たちがつながり、地域の犯罪抑止につながる。外の人を介在させず閉鎖的である方が、かえって犯罪の危険性を増す場合もある。 また、ボランティアが集まる機会は、学校から教育方針や防犯についての要望を伝える・共有する機会にもなる。 <p>※研修会で紹介した地域では、コーディネーター主催による年2回の定例会議、ボランティア入門講座（基本的なボランティアの在り方、子どもへの接し方等を一緒に考える形式）等を実施している。</p>
2	<p>地域側の窓口になる人がキーパーソンになると思う。持続可能な取組としていくためにも、高齢化していく地域の方々が当事者意識をもち、それをつないでいくためのサポートが大事だと思う。学校として何ができ、どんなことをしなければならないかを考えていくことが必要だと思う。</p>
(回答)	<p>(「地域側の窓口になる人」の具体的な役割が明確ではないため、求められる回答になるかわかりませんが…)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私は、「窓口」になる人のサポートは、学校の役割ではなく、社会教育の人材養成とサポートではないかと思います。学校の教職員の過重負担を考えると、社会教育との役割分担を明確にしていく必要があると思われる。
3	<p>今年度、学校運営協議会を立ち上げたが、管理職だけが、運営に追われている。講演で話題になったコーディネーターの人選や決め方に良い事例があれば、教えてほしい。</p> <p>地域コーディネーターがいないと、学校（管理職）の仕事が増え、働き方改革に逆行してしまう。どのようにしたら地域コーディネーターを発掘できるのか。</p> <p>過疎地域では、人材の確保は非常に厳しい。コーディネーターはじめ、ボランティアをどう育成するかは、学校だけでなく、行政と協力して考えていかなければならない。</p>
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ① ボランティアの人材バンク（各学校の人材バンク、または市町村の人材バンク）制度の計画化 ② バンク登録したボランティアから、活動経験を重ねた人にコーディネーターを要請 <p>上記の様なプロセスを積み上げてはどうか。</p> <p>コーディネーターは1名でなく複数名で多い方がよいと思う。仲間で課題を出し合い、よりよい解決策を検討し合うことができる。コーディネーターを孤立させない。</p>
4	<p>R6からのCS設置を目指している。学区内の保護者・地域へのCSの理解、周知をどのように進めていくか、先行事例や斬新なアイデアがあれば教えていただきたい。</p>
(回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・ CSは、学校教育を円滑に運営するためのしくみ。もっとも大切なことは、「学校での教育活動や行事、さらには参加と支援の方法を保護者や地域の人びとに知らせ、理解してもらい、参加しやすい環境づくりをすること」です。 ・ その一方で、社会教育・生涯学習課は、地域のボランティアの要請や、地域学校協働活動推進員の派遣やコーディネーター、ボランティアの養成を行います。